

令和5年度F工房活動報告書

1. 学生ファシリテータ（以下、学ファシ）の養成

1-1. 学ファシの人数

	学ファシ					合計
	4年次	3年次	2年次	継続	新規	
第13期	20名	17名	52名	34名	55名	89名
第14期	15名	35名	42名	40名	52名	92名

※翌年度の年次で記載

第14期学ファシ人数は、第13期と比較すると継続者の人数増により全体として微増し、過去最多であった。なお、第14期学ファシ92名のうち12名の学ファシが研修日程と他の活動との両立が困難となったこと、モチベーションの低下等を理由に活動の辞退を申し出た。さらに5名は研修期間中に無断欠席をしたり、連絡が取れなくなる等の理由により登録から除外する対応を取ったため、令和6年3月末日時点で75名の登録となっている（第13期活動期間の辞退者は16名であった）。

1-2. 第13期後半の活動

■活動一覧

	タイトル	日程・期間	概要	分類
1	「自己発見と大学生活（以下、「自己大」）」 授業運営支援 ※受講生（初年次生）が「対話」を通して大学生活に対する自分なりの「方針」を持つことを目指すキャリア形成支援教育科目	令和5年 4月～7月（全15回）	学ファシはアイスブレイク運営や大学生活に関する話題提供、グループワーク支援、受講生へのフィードバックなどを行った。	実践
2	「自己大」ほっこり茶話会	令和5年 4月13日（木）	各クラスの「自己大」第1回授業が終了した時期に、授業運営の感想や不安などを気軽に共有できる場として開催。	その他
3	「自己大」授業運営支援に伴うクラス状況報告	令和5年 4月19日（水）～ 5月2日（火） 6月9日（金）～ 16日（金）	「自己大」授業運営支援での各クラスの状況把握を目的に、各クラス2回のクラス状況報告を実施。	その他
4	「先輩の体験談」スピーチ対策：駆け込み寺	令和5年 4月12日（水）、19日（水）、20日（水）	「自己大」第3回授業で学ファシが話題提供する「先輩（学ファシ）の体験談」スピーチに対して不安があるという学ファシを対象に個別支援を実施。	その他

5	第14期新規学ファン 募集説明会の企画・運営	令和5年 6月上旬～7月下旬	第14期学ファン募集説明会の企画・運営メンバーを募った。運営メンバーは、説明会に向けた企画を検討した。	その他
6	ふりかえりの集い	令和5年 8月9日（水）	約1年の学ファン活動を振り返り、学びや気づきを言語化することを目的に実施。	研修

※上記の他、学ファン自身の興味・関心や意欲に基づいた自主企画の取り組みが学ファン自身によって複数行われた。

■取り組みの成果と課題

今年度の特徴的な取り組みは下記の通りである。

1) 「自己大」授業運営支援

第13期学ファンは人数が大幅に増えた（前期比約1.4倍）ことにより、「自己大」授業運営には72名（前年度54名）が参加した。全30クラスのうち1クラスを除き3名の学ファンを配置することができた。

これにより科目の事務局である初年次教育センターから数年前に出ていた1クラスあたり学ファン3名配置の要望に応えることができた。配置にあたっては、単に学ファンの空きコマに基づき人数を揃えるだけでなく、円滑な授業支援に向けた教員との協働のため学ファンの経験値や個性等を考慮して多様な学ファン同士を組み合わせ、担当クラスを決定するという熟考を要する作業を経ている。なお、春学期の「自己大」授業開始時点の活動者73名のうち1名は留学のため、授業運営には参加しなかった。

同時に、初年次教育センターから要望のあった学ファンの質の担保について、2021年度より研修をさらに充実させるために試行錯誤しながら取り組んできた。その成果として、学ファン養成の手応えは様々な場面で見られる学ファン個々の成長ぶりからだけでなく、科目担当教員から寄せられる「クラス全体の安心感や信頼感づくりに貢献していた」「学ファン自身の個性を活かしながら受講生をサポートしていた」等、多数の具体的なフィードバックからも知ることができた。また、これらのフィードバックは学ファン個人へも共有しており、学ファン自身が自己理解を深めたり成長を実感したりすることに良い影響を及ぼしていると考えられる。

一方で、学ファンのスキルや意欲の向上に伴い、「自己大」運営における学ファンの役割について、教員同士の情報交換会では複数の教員より「実力を持って余しているのでは」という声や「思いがけない意見や提案があり戸惑った」といった発言があった。学ファンの意欲に応じて何をどこまで任せるべきか、今後、統括・副統括教員と話し合い検討したい。

2) 「自己大」クラス状況報告

昨年度までは授業期間中、クラスごとに2回の面談を実施し授業運営支援での受講生の様子や教員との協働・学ファン同士の協働の様子の把握、トラブルを未然に防げるよう体制をとってきた。研修内容を充実させてきたことにより学ファン自身がより積極的で主体的に行動する様子が見られたこと、また学ファンの負担軽減の面から面談を取りやめ別の形式とした。各クラスの代表者が昼休みを利用してF工房職員に、より気楽にクラスの状態を報告する形式とした。報告内容から必要に応じて詳しくヒアリングするようにした。

3) 学ファシによる自主企画

前年度に引き続き、学ファシ自身の興味・関心や意欲に基づいた自主企画が特に継続学ファシによって複数行われた。2年前よりファシリテーション研修の内容を大幅に見直し、研修においてプログラムデザインの視点を伝える等、内容を充実させてきたことの一つの成果として捉えることができた。プログラムデザインの視点を持つことが学ファシの中に定着しつつあり、イベント等を自主企画する先輩の様子を見て自分もチャレンジしようとする様子が見られるようになってきた。

➤ One ファシ

第12期より実施してきた有志の学ファシによる企画で、ワークを通して交流を楽しみながらファシリテーションについて簡単なレクチャーが受けられるプログラム構成になっている。企画している学ファシの興味・関心から、対話（はなし）を見える化する手法であるグラフィックファシリテーションをテーマに今期は実施していた。

➤ えふかふえ ～モヤモヤを語ろう～ ジェンダー編

ジェンダー/セクシュアリティに対して関心の高い学ファシが第12期より、学ファシ内でもそれらについて理解や話題共有を進め、新たなファシリテーションの視点を身につけてほしいという思いで企画・運営している。今期は特に、「自己大」授業運営支援場面でのグループ分けにおけるジェンダーバランス考慮の必要性等、実践での気づきをテーマに実施していた。

➤ 学ファシ交流会

学ファシ同士の親睦を深めたいと考える有志の学ファシが企画・運営した。複数回開催し、ランチタイムを利用した交流会でのアイスブレイクワーク等を実施していた。

4) 第14期新規学ファシ募集説明会の企画運営

第13期活動者4名が企画・運営メンバーとして職員と共に募集活動を行った。学ファシ活動PR動画制作および募集説明会における学ファシ担当パートの企画・運営を担当した。説明会では学ファシ活動の体験談を発表し、オンライン質問ツールを用いた質疑応答も運営メンバーが進行した。動画制作は学ファシが提案し、それを得意とするメンバーが中心となって担った。

■第13期の総括

「自己大」担当教員から寄せられるフィードバックや学ファシによる自主企画の多様さから、第13期学ファシは主体性や積極性が高まっており、今まで通りの活動にとどまらないポテンシャルの高さがうかがえた。そうした学ファシの声に応えられるよう、第14期では新たな活動の場づくりや自主企画の後押しなど、企画段階から意欲のある学ファシを巻き込み、自身の活躍の場を自分たちで作らだせるよう、より一層サポートに尽力したい。

1-3. 第14期前半の活動

■活動一覧

	タイトル	日程	概要	分類
1	第14期 新規学ファシ募集 説明会	令和5年 7月18日(火)、20日 (木)、21日(金)	新規活動希望者を対象に、学ファシ活動の概要や応募方法等について説明。その後、学ファシ担当パートにおいて運営メンバーが学ファシ活動の体験談を学生目線で発表した。	説明会

2	新規学ファシ オリエンテーション	令和5年 10月5日(木)	学ファシ活動の概要や活動する上で必要な ルール・注意点等を共有した。	研修
3	継続学ファシ研修	令和5年 10月7日(土)	研修の実施方法や注意点を共有するとともに、 継続学ファシとしてステップアップする ことを目指し、期待する姿を共有した。	研修
4	ファシリテーション 研修 【必須参加/全5回】	令和5年 10月21日(土)、11月 11日(土)、25日(土)、 12月16日(土) 令和6年 1月13日(土)	第14期学ファシ同士が関係性を構築する こと、ファシリテータの基本的なマインド・ スタンス・スキルを知る/体感することを目的 に実施。一部、継続学ファシが企画・運営を 担った。	研修
5	ファシリテーション 研修おさらい会	令和5年 10月30日(月)、11月 20日(月)、12月4日(月)、 25日(月) 令和6年 1月15日(月)	ファシリテーション研修で行ったワークを 他のメンバーともう一度体験したり、レクチ ャー内容をおさらいしたりする機会として実 施。	研修
6	京都文教大学プロジ ェクト科目とのコラ ボレーション企画	令和5年 12月16日(土)	京都文教大学プロジェクト科目受講生が学 ファシに向けてワークショップを企画・実施。 ワークショップ後には参加者全員でのふりか えりセッションを設けた。	その他
7	「自己大」事前研修 【必須参加/全3回】	令和6年 2月6日(火)、3月26 日(火)、27日(水)	「自己大」の教育目標および学ファシの役 割理解を目的に、統括・副統括教員と協働し ながら研修を実施した。 【研修内容】 ・チームビルディングに必要な対話の場をつ くる方法の体験 ・多様な人と場を共有するための準備 ・学ファシ1人1人が授業内で運営するプロ グラムの準備・練習、テーブルファシリテ ータの体験	研修

■取り組みの成果と課題

昨年度頃より少しずつ成果があがっている学ファシが自ら活動の場をつくっていく仕組みづくりについて、さらに学ファシのなかに社会との接続の視点が醸成されつつあり、興味・関心やチャレンジの広がりがみられる。この意欲に応えるため、さらに多様な活動場面と協働の機会を学ファシと共に創出していきたい。

1) ファシリテーション研修

「ファシリテータとしての基本的なスタンス・マインド・スキルを体験的に知る」、「学ファ

シ同士の関係性構築」を目的として、全5回の研修を実施した。学ファシ人数の増加に伴い、昨年度に引き続き全員が収容可能な研修会場の検討と確保に苦慮した。昨年度は、学ファシ人数の増加に伴い研修会場を二つに分けたこともあり学ファシ同士の関係性の希薄さが課題であった。これを改善するため、全員が同じ会場に集まり研修ができるようラーニングコモンズを会場として実施した。

今期は特に、第12期、第13期に比べ、サポーターとして参画した4年次生9名が自ら「研修を受ける後輩たちに必要なこと（学ぶべき視点やスキル等）」を考え、積極的に意見や提案をする場面が増え、より主体的な研修運営となった。加えて、研修内容にとどまらず、学ファシ活動の方針や団体としてのあり方についても、活発に議論される様子が見受けられた。こうした議論の場にはサポーターである4年次生だけでなく、継続学ファシも積極的に参加しており、学ファシが自分たちで研修および学ファシ活動を運営していく風土が定着しつつあると感じた。詳細はキャンパスフラッシュ参照。

第14期活動始動（https://www.kyoto-su.ac.jp/news/20231107_875_gakufashi.html）
学ファシが企画・運営（https://www.kyoto-su.ac.jp/news/20240111_875_gakufashi.html）

2) 外部委託によるファシリテーション研修のサポート効果

第13期と同様に職員の業務負担軽減や学ファシ活動の質向上を目的に、外部委託によるF工房職員に対するコンサルティングや研修における企画・運営のサポート等を依頼した。

第14期は特に、サポーターである4年次生が主体的にワークショップを企画し、その企画へのフィードバックや当日のサポートなどを、自ら外部ファシリテータに相談し協働を依頼する等、学ファシ自身の興味・関心に合わせてさらに主体的にチャレンジすることができた。この取り組みは、ともに運営した3年次生が4年次生から引き継いで今後も継続していく予定で、他の継続学ファシや新規学ファシも刺激を受け、同じように「自分でなにかイベントやワークショップ等を企画したい」と感じている学ファシが増えつつあるように感じる。

また、3年次生である継続学ファシからは、4年次生の主体的なチャレンジ精神の流れを受け継ごうと「自分たちが今後の学ファシ活動を盛り上げていきたい」「そのために今後は積極的に後輩を巻き込みながら企画を立ち上げていきたい」というような思いを外部ファシリテータに打ち明ける様子が度々見受けられ、学ファシ活動および学ファシという団体を自分たちが運営していくという自覚も高まっているように感じた。

このように、第14期では外部ファシリテータとともに自分たちで活動の場をつくっていくという気運がさらに高まり、そういった学ファシからの声にF工房職員に加え外部ファシリテータが応えることで、さらに学ファシ活動への意欲が高まった。

3) 京都文教大学プロジェクト科目とのコラボレーション企画

京都文教大学「プロジェクト科目IB【対話を促すワークショップの運営クラス】」の担当教員（本学卒業生、元学ファシ）よりF工房に依頼いただき、コラボレーション企画を開催した。2021年度より実施しており、今回で3回目となった。

詳細はキャンパスフラッシュ参照。

（https://www.kyoto-su.ac.jp/news/20231216_875_gakufashi.html）

■第14期前半の総括

今期も学ファシ全体としては高いモチベーションを維持しており、チャレンジ意欲のある学

ファッションが増加している。一方で、活動者の増加により学ファッション同士の関係性構築には課題があると言わざるを得ない。研修場面だけで補えるものではないため日頃からの学ファッション同士の交流など、学ファッションの主体性に任せながらも職員のサポートが必要である。また、秋学期のファッションリレーション研修には参加したものの、留学や他の活動との両立等の理由から春学期の主な実践の場である「自己大」授業支援では活動しない学ファッションが7名いる。個人によりその事情は様々であるが、「自己大」での活動にとどまらず、研修を通して学んだファッションリレーションを他の授業支援や場づくりなどの機会に活かそうとする意欲の高さがうかがえる。

今後も意欲ある学ファッションを巻き込みながら、学ファッション同士のつながりを意識し、新たな取り組みにチャレンジするなど、多様な学ファッションの個性を活かしていきたい。

2. FDに関する取り組み

2-1. 授業の見学

公開授業&ワークショップ：なし

授業形態の変化等の影響もあり、授業見学の実施を見送った。

2-2. 教育支援研究開発センター主催研修会

学生と教職員が一緒になって生き生きと活躍するための学びを考える「一人一人の学生の未来のためのワークショップ」

□日時：2023年12月14日（木）17:00～19:00

□概要

本学で定めている4年間での学びを通じて、卒業までに修得を目指す「8つの資質・能力」について、学生には理解促進や意識醸成、教職員には学生の声を聴くことで今後の取り組み改善を行うことを目的にワークショップが開催された。関心のある学ファッション数名が参加し、うち2名はグループワークの議論を可視化するグラフィックレコーディング※を担うグラフィッカーとして活躍した。

※グラフィックレコーディング：絵や文字、図解を使って、リアルタイムに話を可視化することで話の内容をその場で確認したり整理したりする手法

詳細はキャンパスフラッシュ参照。

(https://www.kyoto-su.ac.jp/news/20231214_857_workshop.html)

3. F工房サポートプログラム

■依頼件数：7件（のべ9回）

≪プログラム種類別の内訳≫

プログラム種類	件数
学内他部署との協働	4
授業の支援	3
課外活動の支援	0

※詳細は別紙「プログラム種類別の詳細」参照

※件数は依頼者の担当プログラムおよび担当科目ベース

≪支援内容別の内訳≫

支援内容	回数
ワークショップ・授業の運営支援（コンテンツ運営）	8
見学・フィードバック	1
ワークショップ・授業の設計支援（助言・情報提供）	0
学ファッション派遣	6

※支援内容別の内訳は、依頼 1 件に対し複数の支援を同時に実施する必要があるためのべ回数を記載（事前打ち合わせ・ふりかえりは除く）

※「自己大」は授業期間中、学ファシの派遣を通じて全クラスの運営支援に関わるため回数を出しづらいことから 1 回でカウント

■今年度の特徴的な取り組みと今後の課題

1) 本山寮ユニットリーダー研修

4月に開寮する本山寮でユニットリーダーとして新入寮生の生活をサポートする寮生（次期2年次生）を対象とする研修会を、学生部（現学生支援センター）の依頼により学ファシが運営した。学ファシは、F工房職員と共に、本研修の主催者である学生部寮務担当職員との事前打ち合わせに参加し、研修内容立案から当日の進行までの一連の役割を担った。プログラム全体に学ファシが関わる取り組みは、学ファシのプログラムデザインへの興味関心の高まりに応じて昨年度から行っているが、今年度はより学ファシが主体となり実施することができた。また、昨年度から引き続き参画した学ファシが複数人いたことで「昨年度の研修で得た学びや気づきとその後の寮生活でどのように活かされたのか知ったうえで、今年度の研修内容を考えるべきではないか」という提案もされ、研修の本質的な意味づけを見直す機会を提供することができた。

詳細はキャンパスフラッシュ参照。

(https://www.kyoto-su.ac.jp/news/20240312_875_gakufashi.html)

2) 文化学部FD研修会

文化学部教員からの依頼で、計2回の文化学部教員向け研修に参加した。第1回では出席した教員25名に対し、F工房職員がグループワークや学ファシ養成において意識している姿勢やマインドについて、ファシリテーション研修や学ファシとの協働を例にレクチャーした。

また、後日行われた第2回研修では、実践として教員19名が有志の学ファシ10名と実際にグループワークを行い、意見交換した。学生・教員双方にとって、授業でのグループワークについて考えを共有できる機会となり、グループワークに苦手意識を持っているグループでも活発な議論が展開される様子が見られた。

■F工房サポートプログラムの総括

依頼件数は7件（のべ9回）であった。学部の新入生オリエンテーション運営支援がコロナ禍前の2件に戻ったほか、学部のFD研修会やこれまで依頼のなかった科目での授業支援等、新たな機会が多かった。昨年度より、依頼のあった案件に積極的に学ファシとの協働を取り入れてきたが、今年度依頼のあった7件のうち6件でこれを実現することができた。今年度はさらに、依頼者と打ち合わせのうえでいくつかのプログラムにおいて、プログラムデザインからその運営までを学ファシ主体で担った。これは学ファシにとっても依頼者のニーズを理解しプログラムを組み立てることができるという実績づくりという点で大きな成果であるといえる。今後は、F工房サポートプログラムも学ファシの活動機会として捉え、学ファシが積極的に役割を担っていくことも視野に入れ、このような取り組みを続けていきたい。

※F工房サポートプログラム：これまで「コンサルティング業務」の名称で行ってきた学生の主体的な学びをサポートするために「ファシリテーション」を取り入れた授業運営手法や課外活動における場づくりのサポートを「F工房サポートプログラム」に改称した。

4. 学外での発表・講演

4-1. 学外への講師派遣：実施なし

4-2. 学外での発表

大学コンソーシアム京都第29回FDフォーラム（対面開催）

□日時：令和6年2月23日（金）

分科会 10:00~12:00、ポスターセッション 16:30~18:00

□場所：キャンパスプラザ京都

▶第1分科会での発表

□分科会テーマ等

「学生とともに考えつくりだす安心・安全の場 ～学生ファシリテータ養成のための取組について～」

- 発表者：大島和美（F工房 嘱託職員）

□概要

本学F工場の学生ファシリテータ（以下、学ファシ）養成のための取り組みについて紹介し、学生が身構えないで参加できる「安心・安全の場」・「学生自らチャレンジしたくなる場」をつくるために取り入れている工夫や心掛けてきたこと等について共有した。学生が安心して、「自分はここにいていいんだ！」と思えることが学びの意欲や主体性の向上に繋がるという考えのもと、最初は「なんか楽しい、話しやすい」と思ってもらえるような場をつくること、さらには研修設計で意識している具体的なポイントについて実際の研修資料や学ファシが作成したスライド等を用いて紹介した。最後に今後の展望として、学ファシがより一層「やりたい！」と思える、その想いに応えられる環境づくりを推進していきたいと締めくくった。

▶ポスターセッション発表

□発表テーマ等

「学生ファシリテータの考えから調べる活動意義」

- 発表者：学ファシ3名、F工房職員3名

□成果

今年度は、継続学ファシ2名、新規学ファシ1名の学ファシがチームとなって本発表に挑戦した。ミーティングでは、過年度にポスター発表の経験がある4年次生がグラフィックファシリテーションの手法を用いて適宜サポートした。準備段階では、打ち合わせで全員の予定が合いづらかったり、チームビルディングがスムーズではなかったためにメンバー間の合意形成に難しさが見受けられたりしたが、後半になりポスター作成作業が大詰めになると、やるべきことを自分たちで可視化して見通しを持ちながら、互いの得意・不得意をうまく補い合っていた。また、当日は来場者からの多角的な質問に学生自身の言葉で丁寧に答える経験から、新たに自分たちの中で理解が深まっていたようであった。

□課題

ポスターのテーマ決めや問いづくりなどの段階では、合意形成や対話の仕方がわからず、話し合いが難航している様子が見受けられた。根気よく辛抱強く対話を続けるポイン

トや、出揃った意見を俯瞰し整理することなどについて、次年度の研修でより明確にして伝えていくことで、話し合うヒントを自分たちで見つけることができるのではないかと感じた。

以上

【別紙】令和5年度 F工房による F工房サポートプログラム実績：プログラム種類別の詳細

1) 学内他部署との協働（4件） [前年度実績：2件]

日程	プログラム名	依頼者所属	コンテンツ運営	見学・FB	助言・情報提供	学ファシ派遣	概要
4/3	新入生グループワーク (2023年度入学生対象)	情報理工学部事務室	1			○	学部が主催する新入生を対象とした参加型オリエンテーションプログラムの設計支援、学ファシ派遣、プログラム運営者（学ファシ、学部の先輩学生、教員）向け研修の運営
4/4	導入教育プログラム「自己の探求プログラム」 (2023年度入学生対象)	理学部事務室	1			○	学部が主催する新入生を対象とした参加型グループワークプログラムの設計支援、学ファシ派遣、プログラム運営者（学ファシ、学部の先輩学生、教員）向け研修の運営
2/8	本山寮ユニットリーダー研修プログラム	学生部（寮務担当）	1			○	ユニットリーダーたちが新しい寮の将来像を思い描き、生活するうえでお互いに大切にしたいことを話し合い、対話を通じた課題解決ができる土台づくりを目指したワークショップの設計および当日の運営
2/9,22	文化学部FD研修会：理念編 文化学部FD研修会：実践編	文化学部教員	2			○	グループワークをテーマとしたFD研修会において、理念編ではF工房が大切にしているマインドやノウハウを説明し、実践編では学ファシもグループワークに参加し、教員・学生それぞれの立場からグループワークについて意見交換を実施

2) 授業の支援（3件） [前年度実績：3件]

共通教育科目

日程	プログラム名	依頼者所属	コンテンツ運営	見学・FB	助言・情報提供	学ファシ派遣	概要
4/7～7/24	自己発見と大学生活	初年次教育センター	30クラス ×15回			○	全30クラス、15コマへの学ファシ派遣、学ファシ向け研修プログラムの設計支援・運営、春学期授業期間（4月～7月）における学ファシの活動支援

学部専門科目

日程	プログラム名	依頼者所属	コンテンツ運営	見学・FB	助言・情報提供	学ファシ派遣	概要
4/27	プレップセミナー	法学部	1	1		○	学部初年次科目において受講生がグループワークに主体的に取り組めるようプログラムをデザイン・運営
5/19	フィールド演習Ⅰ	文化学部	1				これまでのフィールドワークを振り返り、「見方」「聞き方」「書き方」「まとめ方」についてグループワークを通じて受講生が考えるワークを運営

3) 課外活動の支援（0件） [前年度実績：0件]